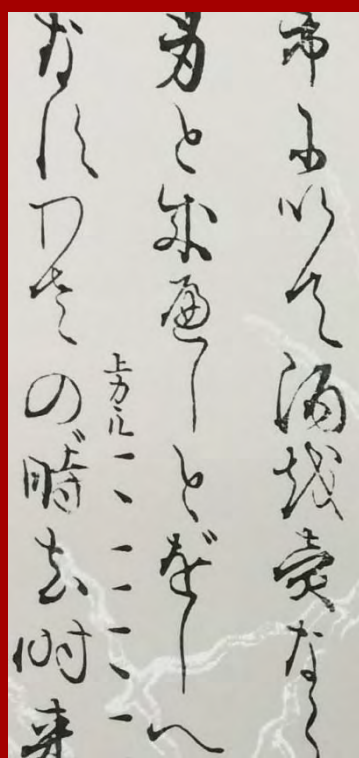
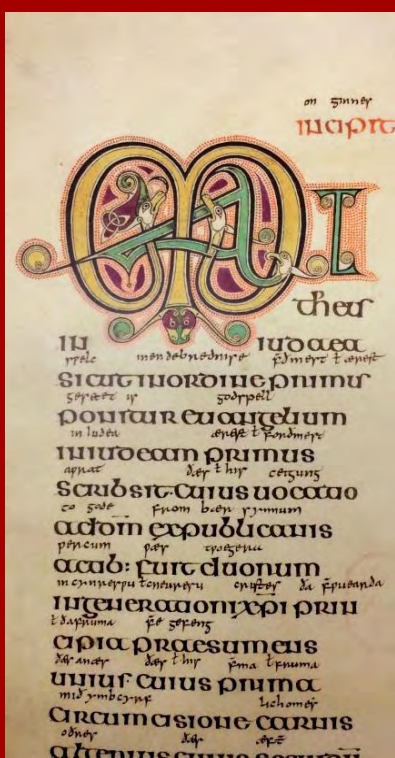


図書文化史

第60回明治大学図書館ギャラリー展示企画



会場：明治大学中央図書館1Fギャラリー（入場無料）
明治大学駿河台キャンパス リバティタワー1F

【最寄駅からのアクセス】

- JR 中央線・総武線、東京メトロ丸ノ内線／御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
- 東京メトロ千代田線／新御茶ノ水駅 下車徒歩約5分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線／神保町駅 下車徒歩約5分

会期：2015年7月18日(土)～8月20日(木)

- 7月中：平日 9:00～21:30 土 9:00～18:30 日・祝 10:00～16:30
- 8月中：平日 9:00～19:20 土・日・祝 10:00～16:30

休館：8月10日(月)～8月16日(日)

お問い合わせ先：明治大学中央図書館

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1

TEL 03-3296-4250

「図書の文化史」開催にあたって

「図書の文化史」展は、書物史、印刷史上のさまざまなエポックを紹介しながら、明治大学図書館所蔵資料によって「書物の印刷文化史」をたどる試みです。

時代によって分けた4つの展示ケースごとに次のような資料が展示されています。

展示ケースC:文字の発生

書物の始原を「文字の発生」に置き、最も古い展示品として、おおよそ 2100 年前のものとするシュメールの楔形文字が刻まれた粘土板(番号 4)を展示しました。製紙技術が発明・伝播する以前は、記録のための書写材料に「粘土板」や「木の葉」「竹」「布」「羊皮紙」など、さまざまなものが使用されました。楔形文字が記録された粘土板の他に、布に記されたエジプト「死者の書」、樹木の葉に書かれた「貝多羅經典」など、人類の文字による記録の一端を展示します。また紙に書写されたさまざまな「文字」の例をご覧ください。

展示ケースB:中世彩色写本の世界

中世の修道院では、多くの図書が手作業で書写されることにより、学術・文化が伝えられてきました。楽譜や聖書のオリジナルの零葉(ばらばらになった図書の1枚)の他に、イギリスの三大装飾写本として名高い「ケルズの書」「リンデスファーン福音書」「ダロウの書」、幻想的な動植物が描かれた「クロイの時祈書」、マルコ・ポーロ「東方見聞録」の精緻なファクシミリ版などを展示しています。

展示ケースA:活版印刷の始まり

15 世紀半ば、グーテンベルクによる活版印刷術が発明されると、活字や印刷機といった印刷技術はわずか半世紀の間にヨーロッパ中に広まりました。初期の印刷物は写本を模して造られ、一見して写本なのか印刷本なのか区別のつかないものもあります。大量生産されるようになった図書は、一部の聖職者や知識人の専有物ではなくなり、16 世紀には、現代の文庫本の始まりともいえる、持ち歩きに便利な小型本が印刷されました。17 世紀になると郵便制度も整い、やがて、雑誌や新聞といった「逐次刊行物」が誕生します。

展示ケースD:日本の印刷文化

奈良時代に作られた「百万塔陀羅尼」は、世界最古の印刷物のひとつともいわれています。その他、「五山版」「キリシタン版」「伏見版」「嵯峨本」など日本の出版・印刷史上で、特徴あるものを展示・解説しています。日本ではヨーロッパのように「活版印刷」は普及せず、「版木」に文字を彫って印刷する木版(整版)印刷が長く主流をなしますが、室町末期に持ち込まれた西欧式や朝鮮式の活字印刷技術により、近世初期からの約 50 年は「古活字版」が隆盛となり、内容も従来の仏書・漢籍から様々な分野に広がりを見せます。やがて江戸時代に出版業が定着し、大規模出版に適さない活字印刷は廃れて再び整版印刷が復活し江戸の書物文化を支えました。整版印刷は明治初期まで続きますが、活版印刷にとって代わられていきます。明治初期のベストセラーであった福沢諭吉の「学問ノススメ」には木版印刷のものと活版印刷のものの2種類が存在し、本学所蔵本は巻によって版が異なります。

シュメールの粘土板から福沢諭吉の「学問ノススメ」にいたるまで、おおよそ 4000 年にわたる東西の書物文化をお楽しみいただければ幸いです。

明治大学図書館

図書の文化史(2015) 出展リスト

| 小テーマ | 通番 | 請求記号 | タイトルなど |
|------------------------|----|---------------------|---|
| C ゾーン 文字の発生と書写材料 | 1 | 091.6/21//H | エジプト死者の書 紀元前300年頃 |
| | 2 | 183.81/2//H | 貝多羅經典 |
| | 3 | 091.6/20//H | シュメール朝粘土板 紀元前2029年頃 |
| | 4 | 091.6/19//H 1-A | シュメールの楔形文字が刻まれた粘土板の伝達文 メソポタミア ウル第三王朝時代 紀元前2100年頃 |
| | 5 | 091.6/19//H 1-D | 新シュメールの楔形文字が刻まれた粘土円錐 紀元前2120年頃 |
| | 6 | 091.6/19//H 1-E | 古バビロニア語の楔形文字入り円筒印章 南メソポタミア 古バビロニア時代 紀元前1900~1600年頃 |
| | 7 | 091.6/19//H 2 | エジプト象形文字の例 エジプト 新王国時代 紀元前1200年-紀元2世紀頃 |
| | 8 | 091.6/19//H 3 | エジプト神官文字の例 エジプト メンフィスまたはファユーム 紀元前4世紀-紀元2世紀頃 |
| | 9 | 091.6/19//H 4 | エジプト民衆文字の例 エジプト 紀元前7世紀~紀元2世紀頃 |
| | 10 | 091.6/19//H 5 | コプト文字の例 エジプト 4~7世紀頃 |
| | 11 | 091.6/19//H 6 | ギリシャ語の例 エジプト 2~6世紀頃 |
| | 12 | 091.6/19//H 7 | アラム語の例 シリア 1~3世紀 |
| | 13 | 091.6/19//H 8 | ササン朝の文字の例 古代ペルシア 224~650年 |
| | 14 | 091.6/19//H 9 | ブラーフミー文字の例 パーミヤン 2~5世紀 |
| | 15 | 091.6/19//H 10-A | カロリング朝後期の文字の例 スペイン 10世紀 |
| | 16 | 091.6/19//H 10-B | シトー修道会の筆写体 フランス ブルゴーニュ シトー修道院 1150年頃 |
| | 17 | 091.6/19//H 10-E | イギリスの写字生による詩篇集の一葉 イギリス 14世紀 |
| | 18 | 091.6/19//H 11-B | 16世紀イギリスの法廷文書 イギリス 1578年 |
| B ゾーン 中世彩色写本 | 19 | 091.6/25//H | 中世彩色写本零葉, 交唱聖歌集 イタリア 14世紀中頃 |
| | 20 | 099.3/432//H | ケルズの書【ファクシミリ版】 |
| | 21 | 099.3/342//H | リンディスファーン福音書【ファクシミリ版】 |
| | 22 | 099.3/523//H | ダロウの書【ファクシミリ版】 2冊(解説除く) |
| | 23 | 099.3/135//H | ベリー公のいとも美しき聖母時禱書【ファクシミリ版】 |
| | 24 | 099.3/410//H | クロイの時禱書【ファクシミリ版】 |

| 小テーマ | 通番 | 請求記号 | タイトルなど |
|--|--------------|---------------------------------|--|
| | 25 | 099.3/264//H | マルコ・ポーロ 『驚異の書: 東方見聞録 (Fr.2810)』 15世紀前半 【ファクシミリ版】 |
| | 参考 展示 | 099/4953//H | マルコ・ポーロ 『全訳マルコ・ポーロ東方見聞録: 驚異の書 Fr.2810写本』 岩波書店 2002年 |
| | パネル 展示 | 099.3/412//H | ボルソ・デステの聖書 【エステンセ図書館蔵本ファクシミリ版】 |
| A ゾ ン ヨ ー ロ ッ パ の 印 刷 史 | 26 | 099.3/263//H | グーテンベルク 『四十二行聖書』 零葉 【ファクシミリ版】 |
| | 27 | 099.3/433//H | グーテンベルク聖書 マザラン版 2冊 【ファクシミリ版】 |
| | 28 | 099.3/312//H | シェーデル 『年代記』 ニュルンベルク 1493年 【ファクシミリ版】 |
| | 29 | 099.3/452//H | コペルニクス 『天球の回転について』 ニュルンベルク 1543年 【ファクシミリ版】 |
| | 30 | 099/2751//S | ヴェサリウス 『人体の構造についての七つの書』 バーゼル 1543年 【ファクシミリ版】 |
| | 31 | 099.3/474//H | オルテリウス 『世界の舞台』 アントワープ 1595年 【ファクシミリ版】 |
| | 32 | 193/104//D | マツツペルガー 『絵解き聖書』 アウグスブルク 1685年 【ファクシミリ版】 |
| | 33 | 330/690-27//D | ホップズ 『リヴァイアサン』 head版 ロンドン 1651年 【ファクシミリ版】 |
| | 34 | 091.3/887//H | ダンテ『神曲』1502年 ヴェネチア アルドウス・マヌティウス刊 |
| | 35 | 091.3/850//H | ビュフォン 『博物誌』 パリ 1749-1804年 |
| | 36 | 092.3/652//H | ロセッティ 『バラッド集と叙事詩集』 ケルムスコットプレス 1893年 |
| | 37 | N/176//H | 絵入新聞 『イラストリールテ・ツァイトウング』 ライプチヒ 1843-1944年 |
| | 38 | P055/16//D | 絵入週刊誌 『イリュストラシオン』 パリ 1843-1944年 |
| | 39 | P053/59//DZ (C11H2) | 風刺週刊誌 『パンチ』 ロンドン 1841-1992年 |
| 40 | 092.3/196//H | 『ジェントルマンズ・マガジン』 ロンドン 1731-1907年 | |
| D ゾ ン 日 本 の 印 刷 史 | 41 | 091.1/18//H | 百万塔陀羅尼 神護景雲4年(770) 【陀羅尼のみ複製版】 |
| | 42 | 099.4/23//W | 『鳥獣人物戯画』 平安時代後期～鎌倉時代前期 【複製版】 |
| | 43 | 091.1/22//H | 『禅林類聚』 20巻(欠巻3,4) 貞治6年(1367)序 京都:臨川寺 補刻本 五山版 |
| | 44 | 198.2/31//H | 『ぎやどぺかどる』 下巻 慶長4(1599)年 【複製版】 キリシタン版 (天理図書館蔵きりしたん版集成) |
| | 45 | 091.1/16//H | 『七書』 2巻 慶長11年(1606) 伏見版 |
| | 46 | 099.3/30//H | 光悦謄本 『実盛』『熊野』『猩々』 嗟峨本 古活字版 【複製版】 |
| | 47 | 099.3/30//H | 『竹生島の本地』 丹緑本 古活字版 【複製版】 |
| | 48 | 099.3/30//H | 井原西鶴 『好色一代男』 8冊 天和2年(1682) 浮世草子 【複製版】 |
| | 49 | 913.57/75//H | 『笛竹すみだ川』 5巻合1冊 出版者・刊年不明 青本 |

| 小テーマ | 通番 | 請求記号 | タイトルなど |
|----------|----|-------------------|---|
| | 50 | 913/S1-1//D | 山東京伝 『江戸生艶気樺焼(えどうまれうはきのかばやき)』 3巻 黄表紙 |
| | 51 | 913.57/RY1-38/B/H | 柳亭種彦 『修紫田舎源氏(にせむらせきいなかげんじ)』 38編 文政12-天保13年(1829-1842年) |
| | 52 | 002/8/B/H | 福沢諭吉 『学問ノススメ』 明治5-9年(1872-1876) |
| 参考 展示 | | MB100/FU14-1//W | 福沢諭吉纂輯 『訓蒙窮理図解』 |

1. エジプト死者の書 紀元前 300 年頃 布製 5.5×16cm 091.6/21//H

初期プトレマイオス王朝の布製「死者の書」の一部。

ヒエラティック(神官文字=ヒエログリフを簡略にした古代エジプト文字)で記されている。

2. 貝多羅^{ばいたら}經典 書写年不明 46×6cm 貝葉数量: 73 葉 183.81/2//H

貝多羅に經典を書写したもの。貝多羅とは梵語(サンスクリット語) pattra の音訳語で、「樹木の葉」の意味だが、特に文字を記すのに用いられる多羅樹の葉のこと。古来インドなど南アジアで紙が流通する以前より、ヒンドゥー教や仏教の聖典書写に用いられた。貝多羅を乾燥させて、葉面に針(鉄筆)で経文を彫り、その跡に「すす」を流すと黒褐色の文字が残る。幅 5-6cm、長さ 30-60cm に裁断、書写した經典を夾板(書物を保護するため、2枚の板で書物を挟み紐で結ぶもの)で押さえ、左右の小穴に紐を通してしばり、書冊にして保存した。

3. シュメール朝粘土板印章 紀元前 2029 年頃 091.6/20//H

【参考展示】元静岡県立大学教授 尾崎亨氏による翻字(ローマ字)・翻訳・解説

4. シュメールの楔形文字が刻まれた粘土板の伝達文

メソポタミア ウル第三王朝時代 紀元前 2100 年頃 091.6/19//H (1-A)

【参考展示】元静岡県立大学教授 尾崎亨氏による翻字(ローマ字)・翻訳・解説

5. 新シュメールの楔形文字が刻まれた粘土円錐 紀元前 2120 年頃 091.6/19//H (1-D)

新シュメールの楔形文字の例。太い円錐の粘土に刻まれた奉獻文で、Gudea による Lagash 統治時代の Ningirsu 神殿建設を祝うものである。

【参考展示】元静岡県立大学教授 尾崎亨氏による翻字(ローマ字)・翻訳・解説

6. 古バビロニア語の楔形文字入り円筒印章

南メソポタミア 古バビロニア時代 紀元前 1900~1600 年頃 091.6/19//H (1-E)

向かい合って立つ二人の人物が描かれており、左は角付きの装飾冠を被り、襜入りの長い衣を身につけた神で、片手を腰に当てており、右は無帽の崇拜者で、長い襜入りの衣を着て片手を挙げて神を崇拜している。かつての所有主を記す2行の碑文がみられる。

KAL-dwe-er Aqar-Wer dumu bi-la-du-ú Biladū の息子

7. エジプト象形文字の例 エジプト 新王国時代 紀元前 1200 年~紀元 2 世紀頃 091.6/19//H (2)

パピルスに書かれた「エジプト死者の書」断片で、来世のための呪文が書かれている。

8. エジプト神官文字の例

エジプト メンフィスまたはファユーム 紀元前4世紀～紀元2世紀頃 091.6/19//H (3)

亜麻布に書かれた神官文字の例。神官文字は、象形文字を簡略化したもので、神官らが記録を取るのに用いた。この布片は、「エジプト死者の書」からの文言を含んでいる。



エジプト「神官文字」メンフィスまたはファユーム B.C.4世紀からA.D.2世紀頃

9. エジプト民衆文字の例 エジプト 紀元前7世紀～紀元2世紀頃 091.6/19//H (4)

神官文字をさらに簡略化した民衆文字でパピルスに書かれた商業文書の断片。

10. コプト文字の例 エジプト 4～7世紀頃 091.6/19//H (5)

コプト文字でパピルスに書かれた商業文書の断片。コプト語は古代エジプト語から派生した言語だが、現在ではほとんど使われていない。

11. ギリシャ語の例 エジプト 2～6世紀頃 091.6/19//H (6)

パピルスに筆記体のギリシャ文字で書かれた商業文書の断片。

12. アラム語の例 シリア 1～3世紀 091.6/19//H (7)

イエスの時代に聖地エルサレムの民衆の言葉であったアラム語を用いて鉛に記された呪術文書。

13. ササン朝の文字の例 古代ペルシア 224～650年 091.6/19//H (8)

名前が入られたササン朝ペルシアの印章。

14. ブラーフミー文字の例 パーミヤン 2～5世紀 091.6/19//H (9)

後の多くのインド文字の基礎となったブラーフミー文字でシュロの葉に書かれた文書の断片。

15. カロリング朝後期の文字の例 スペイン 10世紀 091.6/19//H (10-A)

16. シトー修道会の筆写体 フランス ブルゴーニュ シトー修道院 1150年頃 091.6/19//H (10-B)

ヴェラム(子牛・子羊・子山羊の皮を薄く剥いでなめし、筆記用としたもの)にシトー修道会のロマネスク体文字で書かれたラテン語文書の一部。1098年のシトー修道会設立からわずか半世紀後に書かれた、リヨンのフロルスによる『シトー修道会の本山であるブルゴーニュのシトー修道会におけるパウロの書簡の解説』という中世教父写本の一部。

17. イギリスの写字生による詩篇集の一葉 イギリス 14 世紀 091.6/19//H (10-E)

ラテン語でヴェラムに書かれた詩篇集の一葉。黒インクによる角ばったゴシック体の文字が 17 行にわたって書かれている。青インクと磨かれた金箔による 1 行題の頭文字多数。磨かれた金箔地に青と白による 2 行大の頭文字「A」が 1 点、詩篇冒頭に入れられている。

18. 16 世紀イギリスの法廷文書 イギリス 1578 年 091.6/19//H (11-B)

ラテン語法廷文書。Stopesley, Linton, Bedfordshire の Thomas Pygott から John Francklyn 他に対する譲渡証書。証人および Pygott の署名入り。エリザベス一世統治 20 年目 2 月 14 日の日付入り。

19. 中世彩色写本零葉「交唱聖歌集」イタリア 14 世紀中頃 091.6/25//H

大型写本からの断片で、本来は表頁の右隅にあたる部分。角笛を肩に下げ、弓をまさに射んとする人面獣身像が描かれている。部分的に見える譜面は朱の四線。ここに見られる装飾は 14 世紀ピサの聖歌集写本の典型的なもので、おそらくピサで制作されたと考えられる。ヴェラム。22×14cm。



20. ケルズの書【ファクシミリ版】 099.3/432//H

The Book of Kells

Full-color facsimile of the 8th century. Latin manuscript (Ms. 58 in the Library of Trinity College, Dublin)

A unique, limited edition of 1480 copies worldwide Luzern : Faksimile Verlag Luzern , c1990

8 世紀末ないし 9 世紀初頭に制作された聖福音集。制作地は諸説あったが、現在ではスコットランドのアイオワ島とアイルランドのケルズの修道院の連携で完成されたとの説が有力である。華麗な装飾や挿絵に彩られたページが、ウルガタ版聖書(384 年に聖ヒエロニムスによって完成された標準ラテン語訳聖書)の本文ページに挿入されている。ケルト・ゲルマン起源の唐草文様を惜しみなく用いて、2 つのページを除く全てのページが彩色されている。装飾の緻密さ、文様表現の伝統、色彩の豊かさ、書体の美しさなどから、「装飾写本芸術」の最高峰と称えられている。ケルズの修道院に伝来し、17 世紀以来今日までアイルランド共和国のダブリン大学トリニティー・カレッジ図書館に保存されてきた。

※ファクシミリ版

facsimile edition

原資料の本文・図像などの形・色を写真製版技術によって正確に再現するだけでなく、紙質・装丁などの造本面についてもできる限り忠実に再生したもの。ファクシミリ版は、他の複製に比べ手間・費用がかかるため、特に貴重な資料である場合のみ刊行される。

21. リンディスファーン福音書【ファクシミリ版】 099.3/342//H

The Lindisfarne Gospels

This Fine Art Facsimile volume is a faithful recreation of the original manuscript Cotton MS Nero D iv preserved in the British Library, London Luzern : Faksimile-Verlag , c2002

イングランド北東部のリンディスファーン島の修道院で制作された福音書。この修道院はスコットランドのアイオ

ナ修道院からやって来たアイルランド人修道士によって 635 年に創設された。本書には 970 年前後にチェスター・ル・ストリートのオールドレッド (Aldred of Chester-le-Street) によって書き加えられた奥書があり、それによると、この書物は神と聖カスバート (635-687) に捧げられたもので、写字と装飾をイードプリス (?-721, 後にリンディスファーン修道院司教となった修道僧) が、装丁にはエセルワルドとビルフリースが当たり、オールドレッド自身が行間に英語訳を加えた、とされている。聖カスバートは、リンディスファーン修道院の第 6 代司教で、ローマ教会との対立で権威を失墜した修道院の危機を救った聖人として、多くの人々に崇拝されていた。制作年代については、689 年頃という定説に対し、710 年以降であるとの新説が本書の別巻解説で発表されている。

ケルト美術とアングロサクソン美術さらにローマ美術の稀有な融合 (ケルト系螺旋紋・ゲルマン系動物組紐紋・地中海系福音書記者像などからなるモチーフ) を示す美術的価値とともに、本文行間に 10 世紀の古英語訳を有しているという点でも評価されている。本書と『ダロウの書』(680 年頃)、『ケルズの書』(800 年頃・ファクシミリ版を当館所蔵) をあわせた 3 つの写本はイギリスの三大彩飾写本として名高い。「カーペット頁」「装飾頭文字の頁」の精緻な装飾文様が特に目を引く。残念ながら当館所蔵のファクシミリ版はエセルワルドとビルフリースによる豪華な装丁は再現されていない。原本は英国図書館蔵。

22. ダロウの書【ファクシミリ版】 099.3/523//H

The Book of Durrow : Evangeliorum quattuor Codex Durmachnsis

248 leaves ; 37 cm Facsim. reprint of: Codex in the Trinity College, Dublin

Olten : Urs Graf-Verlag , 1960

アイルランドおよびブリテン島で制作された装飾福音書写本としては、現存する最古のものとする。650 年頃、アイルランドのダロウ修道院で制作が開始されたことから、『ダロウの書』と呼ばれ、現在は、ダブリンのトリニティ・カレッジ図書館に保存されている。『ダロウの書』は、『ケルズの書』、『リンディスファーン福音書』と共に、三大ケルト装飾写本と呼ばれ、現存する最も美しい書物として名高い。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの四福音書に序が加えられており、素材は羊皮紙、248 葉からなる。カーペット頁と呼ばれる装飾頁が現存 6 頁、四福音書記の図像 1 頁、さらに各福音書記者の図像が 4 頁、装飾文字が 6 頁ある。特徴の一つは、福音書記者の象徴図像が伝統的なものと異なっている点で、マルコの象徴図像が獅子ではなく鷲に、ヨハネには鷲ではなく、獅子が描かれている。また写本の文字はインシュラー体 (島の文字、Insular Script) と呼ばれる書体で書かれている。これは、6~8 世紀頃にかけてイギリスやアイルランドで用いられた書体で、本書とともに『ケルズの書』や『リンディスファーン福音書』が、インシュラー体による代表的な写本である。

23. ベリー公のいともしき聖母時禱書 【ファクシミリ版】 099.3/135//H

Die tr · s belles heures de Notre-Dame des Herzogs von Berry

Manuscrit Nouv. acq. lat. 3093, Biblioth · que Nationale, Paris

中世末期の彩飾写本のなかでひととき美しく規模の大きなこの時禱書は、愛書家ベリー公が企画した彩飾写本のなかで最も美しいといわれているもので、ヤン・ファン・エイクをはじめ当時の主要画家がこぞって参画した。時禱書とは、ローマ・カトリック教会において、平信徒が個人的に使用するためラテン語または当該国語で書かれた「聖母への祈りを中心とする祈禱書」であり、14・5世紀のフランス、フランドルで数多く制作された。この時禱書は数奇な運命をたどって今日に伝えられ、パリとトリノに分割保管されてきた。現在はフランス国立図書館蔵。



24. クロイの時禱書 【ファクシミリ版】 099.3/410//H

Das Croy-Gebetbuch (Codex 1858 der · sterreichischen Nationalbibliothek in Wien)

Full-ornamented facsimile edition

ブルゴーニュ公国の貴族の中で最も重要で由緒あるクロイ家の一員が、この時禱書の中に一種の記念帳風の書き込みを残していることから、『クロイの時禱書』と呼ばれる。フランドル写本芸術の代表的画家シモン・ベニングラによって彩飾され、装丁を含め完全な状態で今日に伝えられた絢爛たる時禱書を忠実に再現。月暦図、全頁大彩飾画に加えて、欄外には多数の花、鳥、昆虫、宝飾品、さらにヒエロニムス・ボスの世界を彷彿とさせる怪物たちが描き出され、興味深いものとなっている。オーストリア国立図書館蔵。

25. マルコ・ポーロ 『驚異の書：東方見聞録 (Fr.2810)』 15世紀前半【ファクシミリ版】 099.3/264//H

Polo, Marco, 1254-1323? *Le livre de merveilles du monde*

Facsimile reprint of the part of Marco Polo of the original illuminated manuscript Fr. 2810 in the Bibliothèque nationale, Paris

ブルゴーニュのジャン無畏公 (*sans peur*) が15世紀初頭にブシコーの画家など当時最高の画家たちに命じて製作させた豪華写本で、1413年1月に叔父の愛書家として名高いベリー公ジャンに贈られたことが、公の財産目録に記録されている。原本は、『驚異の書 (*Le livre de merveilles du monde*)』と題されて、マルコ・ポーロ、オドリコ、マンドヴィルなど6人の旅行記や遠征記などの著作が収録されているが、本書はその中に所収のマルコ・ポーロ『東方見聞録』(ff.1-96v.)のファクシミリ版である。日本では『東方見聞録』という書名でよく知られているが、一般的には、『世界の記述 (*Divisement dou monde*)』あるいは『百万の書 (*Il milione*)』、などの写本名で呼ばれており、ジェノヴァの獄中で商人マルコ・ポーロがアジア諸国で見聞したことを口述し、ピサ人の物語作家ルスティケロがそれを筆記し後世に伝えられた。

『東方見聞録』の現存する古写本・古版本は140余種にのぼり、その系統は錯綜しているが、現在では、主要テキストは6種類に区別されている。そのうち、フランス語写本は2系統に別れ、もっとも重要なテキストとされるのは、イタリア語方言の入ったフランス語で書かれたF本(フランス国立図書館蔵 Fr.1116)であるが、本写本は、FG本と呼ばれるもうひとつの系統のフランス語訳写本に属し、テキストは14世紀初頭の標準フランス語で綴られている。原本はフランス国立図書館蔵。

【参考展示】 マルコ・ポーロ 『全訳マルコ・ポーロ東方見聞録：驚異の書：Fr.2810写本』 2002年

東京：岩波書店 099/4953//H

Le livre des merveilles

パネル展示 ボルソ・デステの聖書 【エステンセ図書館蔵本ファクシミリ版】 099.3/412//H

La Bibbia di Borso d' Este : Ms.Lat.422-423

ルネサンス宮廷文化が開いたフェッラーラの君主、エステ家のボルソのために制作された2巻本ラテン語聖書 (*Bibbia lateina*)。モデナの国立エステンセ図書館に所蔵されており、一般に『ボルソ・デステの聖書』の名で親しまれている。タッデーオ・クリヴェッリら第一級の画家の手による本写本は、イタリア15世紀彩飾写本のなかにあつて、挿絵および彩飾の質の点でも、量の点でも最も傑出した作品として、西欧彩飾写本芸術の全歴史において最も絢爛豪華な本のひとつの評価を得ている。

26. ゲーテンベルク『四十二行聖書』 零葉 3 枚

【ファクシミリ版】 099.3/263//H

本零葉は、アメリカの Huntington Library 所蔵本より制作されたファクシミリ版で、Canticum canticorum Salomonis (雅歌)、Prophetia Baruch (バルク書)、Actus apostolorum (使徒言行録) の 3 葉。

27. ゲーテンベルク聖書 マザラン版【ファクシミリ版】

2 冊 099.3/433//H

ゲーテンベルク聖書は『四十二行聖書』と呼ばれるほかに、1763 年、書誌学者ドゥ・ボルがフランスの枢機卿マザラン(Mazarin, 1602-1661)の文庫から埃にまみれた「ゲーテンベルク聖書」紙刷り本 2 巻(完本)を発見し再び脚光を浴びることとなり、これにより、別名『マザラン聖書』とも呼ばれている。本書はこの由来となったマザラン図書館の原本から、1984 年パリの・dition les incunables が制作したファクシミリ版である。原本と同じ印刷法を用い、同じ製紙法で再現した用紙に印刷されている。装丁はモロッコ皮を使用している。

※ゲーテンベルク『四十二行聖書』

マイنتツの金細工師ヨハン・ゲーテンベルクが発明した活版印刷術により、初めて印刷された聖書。1450-55 年頃完成したと考えられている。

大型二ツ折で上下 2 巻本のラテン語聖書。本文は 2 段組。冒頭の 9 ページは 40 行、10 ページ目は 41 行、11 ページ以降は全て 42 行であるため、『四十二行聖書』と呼ばれている。

世界で現存する原本は 48 部。そのうち完全本はわずか 21 部である。

印刷後は未製本のシートを各地に送って、顧客の好みに合わせて大文字や余白に装飾が施され製本された。



ゲーテンベルク

28. シェーデル『年代記』 ニュルンベルク 1493 年 ドイツ語版 アントン・コーベルガー刊

【ファクシミリ版】 099.3/312//H

Schedel, Hartmann (1440-1514) *Register des Buchs der Croniken und Geschichten mit Figure[n] und Pildnussen von Anbegin[n] der Welt bis auf dise unnser Zeit.*

Nürnberg : Koberger, 1493

通称『ニュルンベルク年代記』(Nuremberg Chronicle)と呼ばれる本書は、聖書をもととした世界の歴史や地理に関する奇事や異聞を年代順に収録したもので、ラテン語版とドイツ語版が刊行された。印刷者はニュルンベルクで最大の印刷者であったアントン・コーベルガー。コーベルガーの特徴は豊富な挿絵のあることで、本書は木版画 1809 点を含む 15 世紀最大の木版挿絵本である。

29. コペルニクス『天球の回転について』 ニュルンベルク 1543 年 ヨハネス・ペトレイウム刊

【ファクシミリ版】 099.3/452//H

Copernicus, Nicolaus (1473-1543) *Nicolai Copernici Torinensis de revolvitionibvs orbium cælestium, libri VI* Pelplin, Poland : Wydawnictwo Bernardinum, 2007 Reprint of: Norimberg æ : Apud Ioh. Petreium, 1543

コペルニクスは、1473 年にトルン(現在のポーランドの一部)に生まれた。クラクフ大学で天文学を学び、イタリアのボローニャ大学でローマ法について学んだ。この『天球の回転について』(1543 年)において、事実上の

“地動説”を提唱し、また、それを元に惑星の軌道計算を行った。本ファクシミリ版の原本はポーランド所在の 11 冊のうちの 1 冊で、現在ニコラウス・コペルニクス大学(トルン)に所蔵されている。ヒギヌスの『天文詩』(Poetucib Astronomicon)およびプトレマイオスの『アルマゲスト』(Amagest)からの 2 章が合綴されている。

30. ヴェサリウス 『人体の構造についての七つの書』 パーゼル 1543 年 【ファクシミリ版】 099/2751//S

Vesalius, Andreas (1514–1564) *De humani corporis fabrica : libri septem*

Basileae : Ex officina Ioannis Oporini, 1543

ヴェサリウスは 1533 年 18 歳でパリ大学医学部に入学し医学を学ぶが、当時ヨーロッパ医学の主流であったガレノス(Claudius, Galenus. A.D.125–199)によるギリシア医学に失望し、ルーヴアンに戻って勉学を続ける。この時に検死解剖や人骨標本の組み立てなどを積極的に行い、やがてイタリアのパドヴァ大学に入学して 1537 年、23 歳にしてパドヴァ大学医学部の外科及び解剖学の教授に抜擢される。以後、実証によってガレノスの誤りを正し、近代的系統解剖学の体系を樹立した。その最も著名な成果が『人体の構造についての七つの書』である。この書は、実証に基づいた人体のあらゆる箇所の完全な解剖学的・生理学的研究であり、骨、筋肉、脈管、神経、腹部内臓、胸部臓器、脳に関する 7 巻からなる。解剖学の歴史はヴェサリウス以前、以後に分けられ、ヴェサリウスは近代解剖学の基礎を築いた人物として知られるだけでなく、同書の出版は同じ年に出版されたコペルニクスの『天球の回転について』と並んで、近代科学の成立を決定づける記念碑的著作に位置づけられている。その木版解剖図の素晴らしさもまた特筆されるべきものである。

31. オルテリウス 『世界の舞台』 アントワープ 1595 年(初版は 1570 年) プランタン刊

【ファクシミリ版】 099.3/474//H

Ortelius, Abraham (1527–1598) *Theatrum orbis terrarum*

[Antverpiae : Ex officina Plantiniana , M.D. XCV.]

近代地図帳は、オルテリウスの『世界の舞台(Theatrum orbis terrarum)』(アントワープ 1570 年)をもってその嚆矢とする。16 世紀に頂点に達した大航海時代にあつて、ヨーロッパでは大量の地図が出版された。貿易・商業都市であるアントワープに生まれ、メルカトルとも交友のあったオルテリウスは、世界各地を旅して膨大な地図資料を収集し、新しい地図の印刷出版とともに、それらの中から良いものを選び、世界で最初の“地図帳”として結実させた。この地図帳の出版は大成功を収め、新しい地図を追加しながら 1612 年までに 40 版を重ねた。展示は 1595 年版で、この版にはポルトガルのイエズス会宣教師ルイス・ティセラの作製した日本図が初めて掲載された。日本図には本州、四国、九州が描かれているが、蝦夷はまだない。

32. マツペルガー 『絵解き聖書』 アウグスブルク 1685 年 【ファクシミリ版】 193/104//D

Mattsperger, Melchior

Geistliche Herzens-Einbildungen inn zweihundert und funfzig biblischen Figur-Spruchen angedeutet. Allen andachtige[n] Herze[n], u. der Tugend-liebenden Jugend, zu einer gottseligen Belustigung, auch denen Einfaltigen, zu einer anmuthigen Vorstellung, unschweren Ergreifung, und nuzlichen Fassung, auss allen und ieden Buchern der H. Schrift, nach Herzen D. Martini Lutheri sel. Dolmetschung, von einem Liebhaber des gottlichen worts mit sonderbarem Freiss zusam[m]en gelesen, entworfen, und verlegt. Auch inn Kupfer gebracht, und zufinden, ...

Augstburg: Bei Hannsz Georg Bodenehr, Kupferstecher, 1685

本書の内容は以下のたいへん長い書名に明確に表れている。

「250 の／聖書の図像と言葉で表す／心の靈的想像／信心深い心を抱く全ての者、そして徳を好む若者の／法悦な喜びのために／また彼ら純朴な若者たちに／上品な想像を促し／感動を容易にし、更に有用な理解を助けるために／マルティン・ルター博士の翻訳による／聖書の全ての、そしてどの書からも／神の言葉を好む者の手で／特別な熱意を込めて拾い集め／企画、出版された／また銅版画師ハンス・ゲオルク・ボーデナーのもとで／銅板に彫られた
アウクスブルクにて 1685 年」

旧約及び新約聖書から 500 のフレーズを選び、各々に図像を配している。教訓を含んだ句が、従来の絵入聖書とは異なり、日常的に目にするもの、即ちハートや人の耳や目、手足、動植物、建造物、どの家庭にもある道具などのエンブレムと組み合わされている。

7年後の1692年に同じ出版社から別巻が刊行された。扉の図柄に1685年刊本との相違はあるものの、銅版画の中央には同様にハート形の空間を設け、これが「心の靈的想像 500／別巻／250 の／聖書の図像と言葉で表す…」という書き出しで始まって、ほぼ同じ内容の書名で埋められている。扉と見開きになるように「タイトルページの解説」が置かれ、その冒頭に「聖書の図像と言葉と題した前作は…神を愛する多くの、好意ある人々を満足させた」と述べて、7年前の出版が成功したことを示唆している。

33. ホブズ 『リヴァイアサン』 ロンドン 1651 年 【ファクシミリ版】 330/690-27//D

Hobbes, Thomas (1588-1679)

Leviathan : or the matter, forme, and power of a common-wealth ecclesiasticall and civill

London: printed for Andrew Crooke, at the GreenDragon, 1651

市民革命期イギリスの代表的政治思想家ホブズの主著で、社会契約説を打ち出した書。初版の口絵は、「リヴァイアサン」の擬人化した姿を象徴的に描き出している。本書には「1651 年」刊とされている版が三種類あり、タイトルページの飾りに「人の頭」「熊」「オーナメント」とそれぞれ違う図案が使われている。チャールズ2世時代に復刻が禁止されたため刊年を変えて出版されたという。このファクシミリ版は初刷りといわれている「head」版である。

34. ダンテ 『神曲』 1502 年 ヴェネチア アルドゥス・マヌティウス 091.3/887//H

Dante Alighieri (1265-1321)

Le terze rime di Dante. Venetiis

In aedib[us] Aldi Accuratissime, 1502

本書は、小型本やイタリック体を考案したことで知られる出版人アルドゥス・マヌティウス (Aldus Manutius, 1450-1515) が印行したダンテの『神曲』である。

『神曲』はアルドゥス版以前にも、1472年の初版をはじめとして数種の刊本が知られているが、それらは二折判の大型本であった。1502年に刊行された本書は『神曲』初の小型本（八折判。今日の文庫本ほどの大きさ）であり、小さくて読みやすく通常の出版物よりも廉価なため『神曲』の普及に大きな役割を果たした。アルドゥス版『神曲』には1502年8月の初版と1515年8月の第2版があり、前者の初版第2刷の最終葉の裏頁には、アルドゥス工房の商標である「錨にからみつくイルカ」があるが、初版初刷の本書には無い。

35. ビュフォン『博物誌』パリ 1749-1804年 091.3/850//H

Georges-Louis Leclerc de Buffon (1707-1788) *Histoire naturelle* Paris : Imprimerie Royale, 1749-1804

フランス、ブルゴーニュ地方のビュフォン伯爵ジョルジュ＝ルイ・ルクレールが、パリ王立植物園総監の要職にありながら、解剖学者ルイ・ドーバンなどの助力を得て、1749年秋に最初の3巻を出版した。その後も長い年月を経て出版され、ビュフォン没後にも8巻が植物園の同僚レセペードらによって編まれ、全44巻(45分冊)が完成した。1279枚もの図版が収められたこの『博物誌』は、デイドロらの『百科全書』と並んでフランス啓蒙主義に基づく当時の自然科学の最大の成果である。本学所蔵本はフランス王室の紋章が型押しされた刊行当初のままの装丁本で、図版も全て揃っているものである。

ケルムスコット・プレス(Kelmscott Press)

19世紀末、産業革命後の英国において、機械化による大量生産と職人軽視の時代のなかで、詩人であり装飾工芸家、社会運動家であったウィリアム・モリス(1834-1896)が手仕事の重要性を強調し、美しい本、読みやすい本、楽しい本を刊行することを目的として、1891年に創立した私家版印刷所(プライベート・プレス)である。

用紙は手漉きの紙を使用し、活字は15世紀ベニスの活字書体を元に、モリスたちの考案を加えたゴールデン活字、15世紀ドイツの印刷本の活字書体、特にシェーファー(*1)らの書体をもとにしたトロイ活字、さらにイギリスのキャクストン(*2)の活字をもとにしたチョーサー活字を創った。挿絵は友人の画家の協力で、木版画を使用し、製本は簡略なホーランド布背・ボード装とヴェラム装がある。彼が亡くなる1896年までの5年間で53点67巻の美しい本を限定出版した。『チョーサー著作集』は世界の三大美書として知られている。

*1 Schöffer, Peter (ca. 1425-ca. 1502) ドイツの初期活版印刷の印刷者。

ゲーテンベルクの技術を受け継ぎ、ヨハン・フスト(Johann Fust)と共にマインツで印刷所を経営した。

*2 Caxton, William (ca. 1422-1491) 英国活版印刷の創始者。

36. ロセッティ『バラッド集と叙情詩集』ケルムスコットプレス 1893年 092.3/652//H

Rossetti, Dante Gabriel (1828-1882) *Ballads and narrative poems*

Hammersmith : Kelmscott Press, 1893

ゴールデン体 310部限定 リンプヴェラム装。

新聞・雑誌(定期刊行物)の登場

17世紀になると、ヨーロッパでは、印刷技術をはじめとして、初期郵便制度や流通体制などが整い、ニュースの需要が高まった。また、科学革命の世紀と呼ばれる17世紀には世界初の学術誌『Philosophical transactions』が登場する。

* 『Philosophical transactions』Royal Society of London 1665- P405/5//DZ(C05J1)

37. 絵入新聞『イラストリールテ・ツァイトウング』ライプチヒ 1843-1944年

Illustrierte Zeitung. Leipzig, 1843-1944 N/176//H

100年にわたってドイツで発行された絵入週刊新聞。政治、社会、文化など総合的情報を挿絵と文章を織り交ぜた紙面作りで、現在のマスメディア(新聞、テレビ、ラジオ)の役割を担ってきた。同様の絵入新聞としては、イギリスの『Illustrated London News』(1842-, M/684//H)、フランスの『L'illustration』(1843-, P055/16//D)が有名である。

38. 絵入週刊誌『イリュストラシオン』パリ 1843-1944年

L'illustration : journal universel. Paris, 1843-1944 P055/16//D

豊富な図版や写真を使ったフランスの絵入総合週刊誌。おおよそ毎号20頁ほどの構成で読者の手に渡った。

1855年のパリ万博の際には、博覧会に出品されたドラクロワの作品が、木版画で再現されて紙面を飾った。図版は当初木版画だったが、1891年にはフランスで初めて写真が載る。カラー写真は1907年に掲載された。

39. 風刺週刊誌『パンチ』 ロンドン 1844-1992年

Punch. London 1844-1992 P053/59//DZ (C11H2)

風刺週刊誌『パンチ』は、1841年に創刊されてから1992年に終刊するまで、およそ150年にわたって刊行された。イギリスの政治や社会を鋭く描いた風刺画は、イギリスのユーモアの典型として広く愛読された。

40. 『ジェントルマンズ・マガジン』 ロンドン 1731-1907年

Gentleman's magazine. London, 1731-1907年 092.3/196//H

総合雑誌の始まりといわれているジェントルマンズ・マガジンは、1731年にロンドンで創刊された。英語辞書編纂者として有名なSamuel Johnsonが、その編集に携わったことでも知られている。バックナンバーは200巻以上になるが、明治大学図書館ではすべての号を所蔵している。

41. 百万塔陀羅尼 4巻【複製版】 塔1基 神護景雲4年(770) 091.1/18//H

奈良時代の女帝、称徳天皇(718-770)が天平宝字8年(764)に起きた藤原仲麻呂の乱を平定後、仏の加護に感謝し、また戦没者鎮魂のために、木製三重小塔百万基を造らせた。この小塔に納められたのが『無垢浄光経』(密教の経典)の4種の陀羅尼(根本、相輪、慈心、六度)である。陀羅尼とは、梵語(サンスクリット)文の呪文を意識せず、音写のまま唱えるもので、教えの真理を記憶させる力、行者を守る力、神通力を与える力があるとされる。短いものを真言、長いものを陀羅尼という。黄蘗染めの麻紙に印刷されており、韓国の仏国寺で発見された陀羅尼と並んで世界最古の印刷物のひとつ。完成した神護景雲4年(770)に畿内の興福寺、東大寺などの十大寺に分置された。現存するのは法隆寺伝来品のみ(約44,000基・明治41年調査)で、他は天災、兵火などで失われてしまった。

展示品は、小塔は奈良時代のオリジナルだが、陀羅尼4巻は全て複製。

42. 『鳥獣人物戯画』【複製版】 099.4/23//W

京都・高山寺に伝来する国宝絵巻四巻のうち、甲巻・乙巻の二巻の複製版。平安時代後期から鎌倉時代前期にかけての作品とされている。筆者は鳴羽絵と呼ばれる戯画の名手鳥羽僧正覚猷(1053-1140)と伝えられているが確証はなく、四巻はそれぞれ制作年代や画風の違いから筆者が異なる別個の作品であると見られている。

甲巻は蛙、猿、兎などが人間のように戯れる様子がユーモラスに描かれた日本の戯画を代表する作品。

乙巻は馬、牛、犬、鶏、獅子、象、麒麟、竜など実在する動物と空想上の動物の生態が写實的に描かれている。各巻ともに詞書はない。

43. (元)釋道泰、釋智境集『禪林類聚』20巻(欠巻3-4) 貞治6年(1367) 序 京都 臨川寺 補刻本
五山版 合9冊 091.1/22//H

禅宗の公案の集大成。公案とは、悟りを開かせるために与える問題をいい、昔の高徳の僧の言行を内容とする難問が多い。内容によって102門に類別収録している。

中国の元・大徳11年(1307)刊本の覆刻版で、五山版の中でも大部なもののひとつ。巻1目録末の刊記「貞治六年丁未解制日幹縁僧希杲重刊于京臨川寺」にあるように、希杲(生没年未詳・臨濟宗大覚寺派の僧)が多数の僧侶に刊行経費の寄付をつのり、京都臨川寺にて出版したもの。巻1目録末に刊記の他に「孟榮刊施」の補刻がある伝本が存在するが、これは出版後に中国人刻工の陳孟榮が目録4丁分を新しく彫り直したことを示し、当館所蔵本もこれにあたる。陳孟榮は応安3年(1370)に中国・元より来朝した。

※ 五山版

鎌倉時代に入ると、禅宗寺院は幕府、武家階級の有力な支援を得て、学僧養成の教材として中国の宋・元の禅典や詩文類を覆刻出版し、またわが国の禅僧が著わした語録などを宋・元刊本の様式で出版した。鎌倉時代末期から室町末期にいたる間に五山を中心に行われ、刊行された書籍を五山版と総称する。五山とは鎌倉五山(建長寺・円覚寺・寿福寺・浄智寺・浄妙寺)、京都五山(南禅寺・天龍寺・建仁寺・東福寺・万寿寺)を指すが、これ以外の禅宗寺院が刊行したものも五山版と呼んでおり、410種類を数える。臨川寺版は暦応4年(1341)に刊行が開始され、祖師の語録や禅宗経典の覆刻が主だった。天竜寺版と並んで五山版の代表的存在。

※ 覆刻版

原本の整版本や活字本を薄い紙に透写して版下とし、新たに整版本を作成したもの。透写するときには原本の本文や挿絵を意図的に修正、削除、追加したり、また誤認、誤写、脱漏を引き起こしていることがある。五山版に用いられた方法で、中国より伝来した稀少な宋版や元版は、覆刻によって増刷りされ、需要を満たした。

44. 『ぎやどペかどる』 下巻 慶長 4 年(1599) 日本イエズス会 キリシタン版 【複製版】 198.2/31//H

キリシタン版国字本の典型。金属活字本。当時キリスト教文学の第一人者として名著の誉れ高かったドミニコ派修道士ルイス・デ・グラナダ(Luis de Granada, 1505-88)の信心・修得の書を抄訳したものであるが、訳文も秀麗で、キリシタン版の白眉と称される。神の尊厳を述べると共に報恩善行の道を説いている。原本は重要文化財に指定されている。白茶色地に 57 の桐の花模様を雲母で刷り出した平仮名に漢字を交え、ラテン語聖書引用句などではローマ字を用いている。表紙、袋綴和装訂で全 121 丁。

標題紙裏の中央部に大型文字で『きやとへかどる』と

日本語書名、その下に小さく 2 行に「罪人を善に／導くの儀也」と割書きし、右に「御出世以来千五百九十九年」、左に「慶長四年正月下旬鏤梓也」と刊年を記す。

※ キリシタン版

天正 18 年(1590)、イエズス会の東方巡察使 A. ワリニャーニが布教のため、教義書や教科書をはじめ国書類の印刷を目的として、西欧の印刷機を長崎に搬入し、加津佐、天草、長崎などにおいて印刷した書物。主として金属活字版だが、木活字版もある。ローマ字本(横組み)と国字本(縦組み)とがある。

天正 19 年(1591)にローマ字本『サントスの御作業のうち抜書』2 巻 1 冊が初めて刊行されたが、慶長 19 年(1614)キリスト教の大追放令が発令され、キリシタン版の刊行事業は完全に途絶えた。また刊行されたキリシタン版も多くは失われ、わずかに 32 点の現存が確認されている。キリシタン版の平仮名まじりの口語俗語を中心とする表現方法は、大衆への普及を考慮したものであり、伝統的な仏典の漢語中心の出版に比べると革新的な発想であった。

45. 『七書』 25 巻 慶長 11 年(1606) 伏見版 合 2 冊 091.1/16//H

伏見版としては最後に出版された書物。伏見版『七書』は、初版印刷後、ほとんど同時に同種活字を用いて再度印刷刊行された異版のあることが、現存する伝本の比較で明らかになっている。前者は東洋文庫蔵本などがあり、後者は安田文庫蔵本が知られている。当館所蔵本は後者の異版に当たる。『七書』とは 11 世紀初頭、中国の北宋年間に代表的兵法書 7 種を選んで「七書」と称し、軍事学の基本的経典と定められたのに始まる。本書は合冊されており、第 1 冊に『孫子』3 巻、『呉子』2 巻、『司馬法』3 巻、『尉繚子』5 巻、第 2 冊に『黄石公三略』3 巻、『六韜』6 巻、『唐太宗李衛公問對』3 巻を収める。『孫子』の上巻第 3～5 の 3 丁を欠く。家康は慶長 12 年春、駿府に退隠したので、『七書』を以って伏見版の刊行は終わっている。

※ 伏見版

慶長 4 年(1599)から 11 年(1606)までの 8 年間、徳川家康が京都伏見の円光寺において、元足利学校第 9 代 庵主(校長)の閑室元信(1548-1612)に、約 10 数万個の木活字を与えて、兵書を中心に刊行させた書物をいう。伏見版に用いられた木活字のうち約 1 万個は、現在京都市左京区に移った円光寺や京都府立総合資料館などに重要文化財として保存されている。

46. 光悦謡本 『実盛』『熊野』『猩々』 「観世流謡本」百番 特装本 嵯峨本 古活字版 【複製版】 099.3/30//H

『実盛』: 世阿弥作の修羅物。斎藤別当実盛の霊が遊行上人の説法を聴聞したという伝説と、篠原の戦いの物語を脚色。遊行上人が北陸を訪ねた際、加賀の篠原で実盛公の亡霊に会い供養したという。全料紙が薄緑色。

『熊野』：世阿弥作品の最高峰と言われる作品。春爛漫の中で演出される男女の駆け引きが主題で、清水寺への道行き場面は特に有名。料紙の雲母模様が各伝本とも多様。

『猩々』：猩々は唐土に住むといわれる想像上の霊獣。中国の高風という人に、ある夜、海から現れた猩々が月下に舞いながら汲めども汲めども尽きず飲めども飲めども変わらぬ酒の泉を授け、これにより高風が富貴を極めたというめでたい謡曲。薄紅色の料紙を使用。

※ 嵯峨本

慶長年間（1596-1614）中期から元和年間（1615-24）初期に、京都の嵯峨ほんあみこうえつ（1558-1637）とその門流および角倉素庵すみのくらそあん（1571-1632）らが共同で製作出版した書物で、整版本と古活字版がある。豪商の素庵が私費を投じて、嵯峨で出版したことから『嵯峨本』あるいは『光悦本』と呼び、草花や鳥などの模様を雲母で摺った料紙をはじめ、書体、挿絵、装訂などに美術的、工芸的意匠が凝らされ、わが国書物史上の最高の芸術品とまでいわれている。『伊勢物語』ほか13部38版種が刊行された。刊記がなく、刊年の不明なものがほとんどである。

47. 『竹生島の本地』 丹緑本 古活字版 【複製版】 099.3/30//H

竹生島の弁財天の由来を叙述する本地物（神仏の前世譚であり、神仏の靈験と信仰の功德を説くもの）の御伽草子。原本は、紙数16丁のうち、本文12丁半、絵4面で、挿絵には丹緑黄などの手彩色が施してある。内題「ちくふしまのほんし」。

大和の国壺坂の姫が、亡くなった父の十三回忌の追善を営むために自らの身を売り、奥州へと旅立ち、大蛇への人身御供の身代わりとなる。姫が生け贄として差し出されると、池から大蛇が現れるが、姫が法華経を読むと、その功德で成仏する。大蛇は感謝して、姫を生国まで送り、お布施として千両授ける。姫は母と再会し、後々は志賀の竹生島弁才天として祀られたという。

48. 『好色一代男』 井原西鶴著 天和2年（1682）8冊 【複製版】 099.3/30//H

浮世草子。井原西鶴著、落月庵西吟跋。1682年（天和2）10月、大坂荒砥屋孫兵衛可心版。8冊。

主人公世之介が、7歳にして恋を知り、60歳で女護島に渡るまでの彼の54年間の恋愛遍歴を小説にしたもの。版元の荒砥屋孫兵衛可心は、西鶴と俳諧を通じての知人で、本書は談林俳諧の俳風を身につけた読者に提供された楽屋落文学であったのだらうと思われるが、当時の人情や風俗を興味深く描いたこの小説は、読者の心を魅了し、浮世草子と呼ばれる小説類の流行を生み出すきっかけとなった。章立ては『源氏物語』54帖の枠組みに倣ったといわれ、全8巻54章となっている。挿絵は西鶴の自筆ともいわれ、大変貴重な資料である。

49. 『笛竹すみだ川』 5巻合1冊 作者・画工未詳 板元不明 刊年不明 913.57/75//H

青本。原刊本は、鶴屋から宝暦6年（1756）に刊行された黒本で、それを青本体裁にした再刊本である。角書が付いた元の書名は、「新版とうがんのやなぎなんしのうめ／ふえたけすみだがわ」だったようである。本作は収蔵館が7件ほどしかない稀観本である。また、第二～五巻の元題簽が残っているのも貴重である。

本作が配架される「江戸文藝文庫」は、元来が後期戯作を中心とし、黒本・青本のような初期草双紙類は手薄な領域だった。その欠を補う意味でも、本作の持つ意義は大きい。なお、本作には、画像資料として東北大学図書館狩野文庫本のマイクロフィルム資料が備わり、オンデマンド出版で発売されている。

※黒本・青本

江戸時代中期以降挿絵と文章の双方で表現された大衆小説（＝草双紙）の一種であり、赤本に次いで創始され、黒本・青本を経て黄表紙に引き継がれる。

名称は表紙の色に由来し、赤本が丹、黒本は墨、青本は植物性顔料を用いた萌黄色あるいは藁色をしていることから名づけられた。

50. 山東京伝（1761-1816）『江戸生艶気棒焼』 3巻 黄表紙 [出版年不明] 913/S1-1//D

山東京伝著、北尾政演画。北尾政演は京伝の画名。書名は「江戸前鰻蒲焼」をもじったもの。江戸の金持ちの艶二郎が主人公。艶二郎は醜男のくせにうぬぼれやで勘違いの強い男として設定されており、なんとか吉原の遊女などの色恋で浮名をながそうと必死に努力する姿が滑稽にえがかれている。黄表紙の代表作であり、艶二郎の名は自称色男の代名詞となり、その団子鼻は京伝鼻と称されて評判になったほど。

※黄表紙

草双紙の一種であり、当初の幼稚な絵解き本から、大人の鑑賞にも耐えるエンタティメントへと変化した時期の作品群。表紙が萌黄色表紙（青本）からより廉価な顔料を使用した黄色表紙へと移行してゆくことから「黄表紙」と呼ばれることが多くなった。

1冊5丁（10ページ）で2～3巻からなることが多く、2000種あまり刊行された。

51. 『柳亭種彦（1783-1842）』『修紫田舎源氏』 38編 文政12年-天保13年(1829-1842)

鶴屋喜右衛門 913.57/Ry1-38/B/H

『源氏物語』を室町時代の世界にうつして翻案・合巻化した異色の作品。当時、中国文学の翻案が大いに流行していた背景があるが、種彦はこれを日本古典文学に見出した。足利将軍の一子、光源氏ならぬ光氏が、お家乗っ取りを企む謀反勢力と闘うため、身をやつして女性遍歴を重ねる。まさに恋あり陰謀あり、室町は花の御所を舞台に人気浮世絵師國貞の妖艶な挿絵が映し出す歌舞伎仕立の『源氏物語』で、熱狂的な人気を得た当時の大ベストセラー。将軍家斉の大奥生活に触れたがために絶版となったと伝えられるが、戯作文芸一般への弾圧と華美装幀の禁止が主と見られる。挿絵は歌川國貞による。

52. 福澤諭吉 (1835-1901) 『学問ノススメ』 明治 5-9 年(1872-1876) 002/8/B/H

明治初期の大ベストセラー『学問ノススメ』全 17 篇が刊行されたのは、木版印刷から活版印刷にかわり始めた時期にあたり、各編で活版・木版が混在している。これは版木の保存される木版がこの時代は増刷にはまだ便利であったため、はからずも技術の過渡期であることを表している。毛利家旧蔵の本学所蔵本は、1-3 は木版、4-9 と 11 は活版、10 は木版で印刷されている。本学所蔵の初編は、明治 6 年(1873)刊行。

【参考展示】 福澤諭吉纂輯『^{くもんきゅうりずかい}訓蒙窮理圖解』 MB100/FU14-1//W

福澤の著書には、当時知られていなかった自然科学を啓蒙するために、英米の物理学書(窮理の学)を、子供や初学者向けにわかりやすく翻訳した書もある。初版は明治元年(1868)に慶応義塾より出版。温気(熱)、空気、水、風、雨風、^{ひょうゆきつゆしもこおり}霽雪露霜氷、引力、昼夜、四季、日蝕月蝕の十章からなり、現代の中学理科に相当する。出版されるや「窮理熱」ブームを起し、再版や類似本も多く出版され、後に一部が小学校の教科書にも使用された。本学の所蔵は、三冊合本の再版本で、版心の表下端に「再」の字がある。福澤は科学を学ぶ必要性を、序で次のように説いている。「嗚呼世間の少年等、学問は生涯せよとの^{ことわざ}諺もあるに、何故かくも不精なるや。人の人たるゆえを知らば、^{えき}惜しげもなく、身を役し、^{とくぎ}はばかりもなく、心を勞し、徳誼を修め、知識を開き、^{つと}こころは活発、身体は強壯にして、真の万物の靈たらんことを勉むべし。」福澤の教育に対する思いが、時代を超えて伝わってくる一冊である。



図書文化史(2015)

(第 60 回 明治大学中央図書館企画展示)

編集：中央図書館ギャラリー企画運営 WG

解題執筆協力：内村和至(文学部教授)

発行：明治大学図書館

発行日：2015年7月18日